

活動報告



JEMEA 論文誌発行について

Publication of JEMEA Journal

(株) 豊田中央研究所 福島 英沖
〒4801192 愛知県長久手市横道 41-1
e-mail: h-fukushima@mosk.tytlabs.co.jp

1. はじめに

JEMEA (日本電磁波エネルギー応用学会) 機関誌が 2015 年の 12 月に web 上で発刊されてから 3 年が経過し、学会の質をさらに向上させるために、かねてから査読付き論文の発行が期待されていた。そこで、機関誌・論文誌ワーキンググループ (WG) の活動の一環として編集作業を重ね、昨年 12 月に JEMEA 論文誌の第 1 巻が発刊された¹⁾。さらに、今年 2018 年 2 月に吉川昇 WG 部会長から引き継ぎ、論文誌・機関誌委員会を立ち上げ、年 1~2 回、論文誌を web 上で発行することとなった。機関誌は従来通り、年 2 回発行する予定である。現在、機関誌の初刊を除き閲覧には会員限定のパスワード認証が必要であるが、機関誌、論文誌ともにアーカイブ的に過去の記事、論文を広く一般の人にも閲覧できるようにしていく。本稿では、JEMEA 論文誌発行の意義、今後の活動計画について報告する。

2. 論文誌発行の意義

論文誌発行の意義は JEMEA 学会の信頼性を高め、会員の学術向上に寄与することにある。今までの JEMEA 機関誌でも、会員同士の情報交換や異分野との交流などで重要な役割を果たしてきた。しかし、JEMEA 学会が設立 (2007 年) してから 10 年以上が立ち、学会の質をさらに高めるためには、他の歴史ある学会と同様に、査読付きの論文誌を発行することが必須な要素となってきた。そこで、今後 2 年間で日本学術会議 (協力学術研究団体) への新規加入を目標とし、JEMEA の活動を広く世の中に知ってもらうために、機関誌・論文誌を J-STAGE へ登録する準備を進めることにした。以下、日本学術会議と JST が運営する J-STAGE について、それぞれ紹介する。

3. 日本学術会議について

日本学術会議は内閣総理大臣所轄の機関として昭和 24 年 (1949 年) に設立され、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約 84 万人の科学者を内外に代表する機関である²⁾。日本学術会議から指定を受けた学術研究団体として、日本学術会議協力学術研究団体 (以下、協力学術研究団体) があり、JEMEA 学会もこの団体への新規加入を目指す。協力学術研究団体は、日

本学術会議との間で緊密な連携・協力関係を持つことを目的として、平成17年10月に設けられた。この団体に加入することにより、JEMEAの社会的信用度や学術的価値をより高めることができる。学術研究団体（学協会）として、平成26年現在、1965団体が指定されている³⁾。協力学術研究団体への加入条件として、以下の要件をクリアーする必要がある⁴⁾。

①学術研究の向上発達を主たる目的として、その達成のための学術研究活動を行っていること、②活動が研究者自身の運営により行われていること、③構成員（個人会員）が100人以上であり、かつ研究者の割合が半数以上であること、④学術研究（論文等）を掲載する機関誌を年1回継続して発行していること等が必要となる。さらに登録申込みに関しては、「設立趣意書」、「会則・約款（定款）」、「会員名簿」、「役員名簿」、「最新号の機関誌」、この他、活動等の確認のため「収支決算書」、「投稿規定」、「編集委員会規程」などが必要となる。特に機関誌については、継続して年1回以上発行していること、主に査読付きの投稿論文等を掲載した論文誌であることが必要であり、大会の予稿集、講演要旨集などは対象とならない。また研究者の自主的な集まりであること、役員の半数以上が研究者であること、などの要件も満たす必要がある。

現時点で、学会としての要件はクリアーしているが、査読付き論文の発行はまだ始まったばかりであり、継続性を確保するためには2年ほどの期間が必要と思われる。

4. J-STAGE について

J-STAGEは科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナルの無料公開システムである。科学技術刊行物の電子化による情報の発信と流通の迅速化を目的として、1999年にサービスを開始し、総合電子ジャーナルのプラットフォームとして発展を続けてきた。さらに、2015年より登載コンテンツを新たにし、それまで査読付き論文誌が中心であったが、従来は対象とならなかった研究報告や大会要旨集などもJ-STAGEの登載対象となった⁵⁾。2015年12月末現在で公開誌数が約1900誌、登載数は270万記事を超過しており、近年では年間に約50誌、約9万記事のペースで増加している⁶⁾（2018/5現在、論文457万件、ジャーナル2600誌と急増している）。J-STAGEでは、多くのPDFファイルをフリーに閲覧・ダウンロードすることが可能であるが、一部には認証（パスワード）が付されているものもある。認証の有無については、各発行機関の判断に委ねられているが、掲載資料の約87%がすべての記事をフリーで公開している。一方、認証記事を含む資料については、新しい記事にのみ認証を付し、一定期間経過後にフリー公開とするケースが多いようである。

J-STAGEを使って電子ジャーナルを発行するサービスは、審査をパスすれば無料で利用できる。電子化された論文の閲覧は、ほとんどは無料で公開されている。認証がかかっている論文を閲覧したい場合は、購読者番号の取得が必要となる。掲載資料の分野は、医学・薬学分野が最も多く約3割を占めており、工学、生物学と続いている。使用言語別で見ると、約4割が欧文で書かれた雑誌（欧文誌）、約2割が日本語で書かれた雑誌（和文誌）、残りが和欧混載誌となっている⁷⁾。年間7000

万件以上の掲載記事のダウンロードがあり、特に海外ダウンロード数の増加が顕著である。アクセス元の地域は約4割が日本からとなっており、年間で193カ国からのアクセス記録がある。

5. 今後と課題

JEMEA 機関誌は今回を含め計6回の発行を重ね、特集記事や特別企画などの情報発信を行うことで、webの閲覧数の増加に伴い会員増強に寄与してきた。しかし、今後さらにJEMEA学会を発展させるには、査読付き論文の発行を継続的に行う必要がある。現在、9月に第2巻を発行するための準備を進めている。当面の課題として、論文誌への投稿をどう増やすか、2重投稿の問題をどのように解決するか、論文の質を高めるために査読者の選定とともに論文審査基準をどのように改定していくか、などが挙げられる。現状、JEMEA事務局（佐藤）の協力のもと、福島（委員長：豊田中研）、吉川（副委員長：東北大）、三谷（京大）、樫村（中部大）、椿（東工大）、福島潤（東北大）、朝熊（兵庫県立大）、西岡（産総研）、仙田（富士電波工機）、山中（三菱電機）、藤田（科技研）の産学共同の編集委員で活動を開始し、2年後には若手にバトンタッチするつもりである。

参考文献

- 1) 日本電磁波エネルギー応用学会：<http://www.jemea.org/>
- 2) 日本学術会議協力学術研究団体：<http://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.htm>
- 3) 日本学術会議について（平成26年7月）：
http://www8.cao.go.jp/scj/kaisai/20140731/shiryu_0103-1.pdf
- 4) J-STAGE ホームページ：<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>
- 5) 坪井彩子：情報管理 2016, vol. 59, no. 3, p. 197-199.
- 6) 亀井威則：薬学図書館 2016, vol.61, no.2, p. 114-119.
- 7) Wikipedia：<https://ja.wikipedia.org/wiki/J-STAGE>